

「デジタル・ヒューマニティーズ・コンソーシアム」の運営の仕組

コンソーシアム

※ 中核機関、連携機関、協力機関で構成

○中核機関

(1) コンソーシアム幹事機関に係る業務

- コンソーシアム活動全体に責任をもち、進捗管理・とりまとめ
- 運営委員会の開催

(3) データ規格の国際対応及び分野間調整

- (2)の対象領域について、「連携機関」と共同しつつ、必要に応じてその他の「協力機関」等の協力を得て、以下の取組を実施。
 - ・ 国際標準規格対応
 - ・ データ規格の相互運用性の検討・調整

(4) DH人材育成プログラムの開発・実施

- 必要に応じて「連携機関」、その他の「協力機関」等の協力を得て、以下の取組を実施。
 - ・ 若手研究者、大学院生等を対象に、人文学におけるデータ構築、データ利活用研究の方法論に通じた人材育成を推進するため、教育プログラム(オンデマンド講座、オンライン講座、実習講座)を開発・実施・検証

(5) コンソーシアム活動の成果の普及・啓発等(ネットワーク活動)

- 「連携機関」・「協力機関」、その他関連する機関等と連携し、コンソーシアム活動の成果をHPやシンポジウム、ワークショップ等を通じて広く普及・啓発。DH推進に係る国内外の事例や動向等の発信も併せて推進。

○運営委員会

※ 中核機関、連携機関、その他必要な機関で構成(それぞれ各機関を代表する者が出席)

- コンソーシアムに係る業務の運営方針を決定

○人文系データ規格・データ利活用研究班

(※ 「連携機関」が本業務の中心的役割を担う)

(2) 「データ規格のモデルガイドライン」の策定・「データ利活用研究のユースケース」の創出

- 以下の対象領域について、「中核機関」の公募によって選定された「連携機関」が「中核機関」とともに「人文系データ規格・データ利活用研究班」を形成し共同実施。
なお、必要に応じて「協力機関」等の協力も得る。

<対象領域> ①文字資料
②地図・地誌類関係資料

ネットワーク